

# 魅力発信！えひめ農業

令和7年7月

## 【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業は、県ホームページ(※1)で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1 掲載場所：ホーム＞仕事・産業＞農業＞農産園芸課＞農産物の生産振興

※2 この動向は、7月中に各普及拠点から報告のあったものをとりまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570

愛媛県松山市一番町4丁目4-2

(TEL) 089-912-2558

(FAX) 089-912-2564

<http://www.pref.ehime.jp/noukei/>

## 目次

目次	1
7月のトピックス5選	3
いちごオランダ式生産技術セミナーの開催	3
さといもの新たな増殖技術の確立に向けて「さといも種苗新增殖技術協議会」を設立	3
「地域まるっと中間管理方式」講演会を開催	4
「つるむらさきの日」連動販促活動を支援	4
かんきつの高温障害対策実証試験を開始	5
えひめ農業	6
■東予地方局 地域農業育成室	6
集落リーダーがスマート農業機器の有効性を確認	6
紙マルチとアイガモロボットの除草効果を検証	6
国際農業コンサルタントから土壌診断を学ぶ	7
ふるさと小包「土のめぐみ夏便」発送支援	7
■東予地方局 地域農業育成室 四国中央農業指導班	8
富郷お茶摘み体験と食文化普及講座の開催	8
首都圏における茶販促活動の実施	8
天満集落でイノシシ対策の計画を策定	9
■東予地方局 産地戦略推進室	9
石鎚黒茶の製造が本格化	9
■今治支局 地域農業育成室	10
施設「紅まどんな」の夏季の新梢管理を指導	10
「紅プリンセス」の夏季管理を指導	10
高温対策に向けたさといも栽培講習会を開催	11
鳥獣害対策支援チームによる効果的な複合柵の設置指導	11
■今治支局 地域農業育成室 しまなみ農業指導班	12
岩城駐在ほ場で学生がかんきつ栽培を体験	12
地域食材活用懇談会（学校給食）の開催	12
上島町での新規就農者就農状況面談の実施	13
■今治支局 産地戦略推進室	13
「今治メロン」販促イベントを盛況に終了	13
甘長とうがらしの高温対策を土壌調査で検討	14
■中予地方局 地域農業育成室	14
知事が由良地区再編復旧園で被災生産者と意見交換を実施	14
基盤整備園における鳥獣害対策の強化	15
高温に対する果菜類の技術対策を検討	15
さといも栽培省力化に向けた乗用管理機を利用した防除研修会を開催	16

■中予地方局 地域農業育成室 伊予農業指導班	16
伊予地区就農啓発交流会を開催	16
「ひめの凜」の品質向上に向け講習会を開催	17
■中予地方局 地域農業育成室 久万高原農業指導班	17
熱中症対策、農作業事故防止の徹底を指導	17
小学生が雑穀を使用したカレーナンを調理	18
■中予地方局 産地戦略推進室	18
そらまめ産地の強化に向けて今年度の取組みを協議	18
「さくらひめ」の収益性向上を目指して	19
■南予地方局 地域農業育成室	19
かんきつの日焼け果軽減実証を開始	19
「ひめの凜」の穂肥講習会を開催	20
■南予地方局 地域農業育成室 鬼北農業指導班	20
多収米品種「にじのきらめき」の穂肥診断を実施	20
■南予地方局 地域農業育成室 愛南農業指導班	21
河内晩柑におけるドローン防除の付着状況良好	21
ブロッコリー等の効率的な施肥や干ばつ対策に関する講習会を開催	21
■南予地方局 産地戦略推進室	22
つるむらさき栽培講習会を開催	22
「道の駅みま」を核とした宇和島産農産物のPR活動の実施	22
■八幡浜支局 地域農業育成室	23
青年農業者とともに就農相談実施	23
■八幡浜支局 地域農業育成室 大洲農業指導班	23
青年農業者が大洲農高生と農作業現地研修で交流	23
女性農業者ネットワークの構築に向けて（大洲喜多地区女性組織連携会議開催）	24
■八幡浜支局 地域農業育成室 西予農業指導班	24
三瓶町4Hクラブが視察研修会を開催	24
西予生活研究協議会が視察研修会を開催	25
■八幡浜支局 産地戦略推進室	25
媛小春栽培マニュアル策定に向けた夏秋梢処理実証試験の調査	25
■農産園芸課 高度普及推進グループ	26
水稻の高温対策について協議	26

## 7月のトピックス5選

標 題	いちごオランダ式生産技術セミナーの開催		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和7年7月2日	場所	西条市丹原町池田、西条市明理川	
指導対象	いちご生産者（33人）	連携機関	(株)デルフィージャパン、管内JA、全農、農産園芸課、県内普及機関	
普及指導内容	<p>○当室では、オランダの環境制御技術等の導入により大幅な単収向上を目指す「いちご新技術導入促進事業」（局予算、R7年度～）の第1回セミナーを開催した。</p> <p>○室内研修では、(株)デルフィージャパンの講師より、「光合成を高めるための栽培管理」「植物生理学に基づいた栽培計画の策定法」について理論的な解説があった。</p> <p>○現地研修では、生産者の育苗ほ場2か所で、育苗期における根の分布や排液ECなどのデータに基づいた、実践的な肥培管理やかん水管理について指導が行われた。</p>			
結果と今後	<p>○生産者からは、「今まで信じてきた栽培手法が、いちごにとってストレスになっていたことが分かった」「自分の単収が伸びない原因を特定できそう」「継続的に受講し、実践していきたい」等の声が聞かれた。</p> <p>○今後は、いちごの生育ステージに合わせて同セミナーを4回開催し、さらに、当室でも「いちごスクール」を7回、「現地フォローアップ研修会」を7回開催し、専門家と普及指導員が協働で生産者を指導し、新技術の普及・定着を図っていく。</p>			
				
栽培管理や栽培計画策定法の解説 現地研修（育苗期の管理／生産者から熱心な質問が飛び交った）				

標 題	さといもの新たな増殖技術の確立に向けて「さといも種苗新增殖技術協議会」を設立		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和7年7月16日	場所	今治支局、菊間町ほか3か所	
指導対象	さといも優良種苗新增殖技術協議会（10人）	連携機関	JAおちいまばり、伊予農産（株）、岩谷産業（株）、農林水産研究所	
普及指導内容	<p>○当室は局予算事業を活用し、さといも生産者が優良種芋を低コストかつ短時間で生産できる技術を確認するため、さといも優良種苗新增殖技術協議会を設立した。</p> <p>○協議会では、令和9年度までの活動計画や、地域農業育成室が考案した新增殖技術の現地実証を協議するとともに、岩谷産業（株）より「じゃがいもで得られたエチレンガス活用」の知見を共有した。</p>			
結果と今後	<p>○協議により、2年後に新增殖技術の確立を目指し、エチレンガスによる発芽制御効果を確認する実証ほを市内4か所に設置するなどの取組みが決定した。</p> <p>○現地巡回では、協議会員から「従来の栽培法より生育が早く収量が気になる」「安価で品質の優れる種芋が増産できることに期待している」といった声が上がった。</p> <p>○今後は、協議会を中心に技術の確立に努め、新增殖技術による優良種芋への更新率向上と、これによる産地の維持拡大を図っていく。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: flex-start;"> <div style="width: 30%; border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p style="text-align: center;"><b>【新增殖技術】</b></p> <p>廃棄している親芋に潜在している芽（腋芽）を発芽させ育てた苗を用いて種芋を生産する技術。これまで2年かかった増殖期間を1年に短縮できるとともに種芋由来の病気伝染を軽減できる。</p> </div> <div style="width: 30%; text-align: center;">  <p>技術協議会の開会</p> </div> <div style="width: 30%; text-align: center;">  <p>現地巡回で生育状況を報告</p> </div> </div>				

標 題	「地域まるっと中間管理方式」講演会を開催		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和7年7月18日	場所	東温市奥松瀬川公民館	
指導対象	奥松瀬川地区農村活性化協議会 奥松瀬川地区農業者（30人）	連携機関	東温市、中予地方局農村整備第一課	
普及指導内容	<p>○東温市奥松瀬川地区は、農作業の共同組織や農村RMOを通じた活発な活動を行っており、昨年度末には、集落の関係者が合意した地域計画を策定している。</p> <p>○将来にわたって同地区の農地を守るため、新たに一般社団法人を設立し、全ての農地管理を担う計画を進めており、今回、その手法として「地域まるっと中間管理方式」の提唱者を招いた講演会を開催した。</p> <p>○講演会では、法人設立の進め方や活用できる支援策等の説明があり、参加者からは農地の管理等に関する質問があった。</p>			
結果と今後	<p>○同地区農業者を中心に約50人の参加があるなど、法人設立による農地集約する手法に高い関心が見受けられた。</p> <p>○県内では初の取り組みとなることから、えひめ農林漁業振興機構をはじめ関係する機関と連携して、円滑な法人化と農地の集積について支援していく。</p>			
<p><b>【地域まるっと中間管理方式】</b>  <b>可知祐一郎氏（元愛知県職員）が2017年に提唱</b>  <b>現在18府県で35法人設立</b></p> <p>① 集落等の範囲で関係農家等が会員となる一般社団法人を設立。</p> <p>② 地域内の全ての農地を、農地中間管理機構経由で法人が借り受ける。</p> <p>③ 地域内の自作希望農家は、法人との特定農作業受委託契約によりこれまで通りの耕作等が可能。高齢化等で耕作出来なくなった時は法人が直接経営する。</p>			 <p>「地域まるっと中間管理方式」の講演</p>	

標 題	「つるむらさきの日」連動販促活動を支援		機関名	南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和7年7月26日	場所	JA えひめ南 特産品センター みなみくん、道の駅みま おだいし庵、タオル美術館	
指導対象	—	連携機関	JA えひめ南	
普及指導内容	<p>○認知度向上による消費拡大を目的に JA えひめ南が昨年度登録申請した「つるむらさきの日（7/26）」にあわせ、県内での各種販促活動を支援した。</p> <p>○具体的には積極的な営業活動により集客力の高い観光施設において、期間限定メニューの提供を実現。</p> <p>○さらに、市内産直市での試食販売支援を通じ、消費者からの率直な意見を収集した。</p>			
結果と今後	<p>○メニュー提供を行った飲食店から「食味もよく使いやすい葉物野菜」との評価を受けており、一部飲食店では9月末まで引き続き提供予定。</p> <p>○試食した消費者からは「購入したことがなかったが、思ったより簡単に調理でき美味しい」「積極的に購入したい」といった声があった。</p> <p>○なお、8月には、出荷調整時に廃棄する未利用部分を使った新規加工品の試食検討会を開催する予定。</p>			
			<p>期間限定メニュー  左：宇和島市  中央：今治市  右：消費者に試食提供</p>	

標 題	かんきつの高温障害対策実証試験を開始		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和7年7月2日	場所	伊方町仁田之浜	
指導対象	—	連携機関	JAにしうわ	
普及指導内容	<p>○近年の異常高温により、「紅プリンセス」や「せとか」等の品種で日焼け果と呼ばれる高温障害が発生し、外観品質を損なうことから大きな問題となっている。</p> <p>○このため、当室とJAにしうわでは、日焼け軽減効果が期待される炭酸カルシウム剤の散布や伸縮性果実袋の被覆、日焼けしやすい上向き果等を摘果する樹冠表層摘果について、実証ほを設置した。</p>			
結果と今後	<p>○今後、仕上げ摘果前及び収穫前に日焼け果の発生程度を調査し、各資材の効果や適切な処理時期等を検証する。</p> <p>○試験結果はJAと共有するとともに、生産者に周知し、高温障害の軽減に向けた指導に活かす。</p>			



「紅プリンセス」の日焼け果  
(R6.11)



炭酸カルシウム剤の散布



伸縮性果実袋の被覆

## えひめ農業

標 題	集落リーダーがスマート農業機器の有効性を確認		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和7年7月11日	場所	JA 周桑営農管理研修センター 現地ほ場（西条市小松）	
指導対象	JA 周桑集落長会員（15人）	連携機関	JA 周桑	
普及指導内容	<p>○集落営農組織リーダーを対象としたスマート農業研修会を開催し、水田の自動給水システム、農業用ドローン、営農管理システム等の地域内に導入されているスマート農業機器の現状や、今後普及が見込まれる機器の導入に際しての注意点等を説明した。</p> <p>○実演会では、オペレーターが手放しでも作業が可能な有人型ロボットトラクターが披露された。</p>			
結果と今後	<p>○集落営農組織の構成員が高齢化し、地域の水田管理者が減少する中、実際に導入している法人等との意見交換により機器の有効性や問題点を認識させることができた。</p> <p>○特に、農業用ドローンは関心が高く、当室では、薬剤散布に加え、肥料施用や対象となる作目の拡大等の複合利用を推進するとともに、導入による収支試算の提供等を通して作業や経営の効率化を推進する。</p>			
				
	機器導入の注意点等を説明	自動給水装置の説明	ロボットトラクターの実演	

標 題	紙マルチとアイガモロボットの除草効果を検証		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和7年7月29日	場所	現地ほ場（西条市丹原町川根）	
指導対象	川根集落営農組合（3人）	連携機関	三菱農機販売（株）、JA 周桑	
普及指導内容	<p>○再生紙マルチとアイガモロボットを使用した水稲栽培の実証ほにおいて、田植後2か月半が経過した時点の雑草の発生状況等を調査した。</p> <p>○実証結果については集落営農組合等の関係者に説明し、併せて今後の栽培管理や次年度の栽培等について協議した。</p>			
結果と今後	<p>○紙マルチ地区では、資材費が高くなるものの、田植後1か月頃から紙が溶け始め、溶けた紙の層が残ることで2か月半が経過しても抑草効果を発揮した。</p> <p>○アイガモロボット区では、田植後1か月間は除草できたものの、その後は稲の生育からロボットの走行ができないため2か月後には除草が必要になった。</p> <p>○米価高騰により減農薬米と一般栽培米との価格差が縮小していることから、当室では引き続き、労働時間や販売価格等を考慮し次年度の対応について関係者と協議する。</p>			
				
	マルチを敷きながら田植え	マルチ区の状況	アイガモロボットによる除草	

標 題	国際農業コンサルタントから土壌診断を学ぶ		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和7年7月22～23日	場所	西条市地域創成センター 現地ほ場（西条市神戸）	
指導対象	西条地区青年農業者連絡協議会員 西条地域新規就農者等（44人）	連携 機関	西条市、新居浜市	
普及指導 内容	<p>○青年農業者や新規就農者等が、国際農業コンサルタントの須藤貴之氏から土壌診断を基にした土壌改善の手法を学ぶ勉強会を開催した。</p> <p>○初日の講演では、須藤氏から、ニュージーランド在住の土壌研究の第一人者である Eric kawabe 氏から現地で学んだ土壌改善法の概略が紹介された。</p> <p>○翌日の現地研修では、実際の土壌診断結果に基づいた土壌改善の手法が説明された。</p>			
結果と 今後	<p>○講演では、須藤氏から土壌の分析結果に基づきカルシウムやマグネシウム等の微量元素等のバランスを重視する土壌改善の事例が紹介された。</p> <p>○現地研修では、須藤氏と参加者との間で活発な意見交換が行われるなど熱気溢れる会となった</p> <p>○当室は、今後も農業者等のスキルアップにつながる各種機会を創出するなどして、地域農業の担い手の確保、育成に取り組む。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>土壌改善法についての講演</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>講師 須藤貴之氏</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ネギほ場での研修</p> </div> </div>				

標 題	ふるさと小包「土のめぐみ夏便」発送支援		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和7年7月25日	場所	西条市丹原農村環境改善センター	
指導対象	西条市生活研究協議会丹原支部 (27人)	連携 機関	西条市	
普及指導 内容	<p>○西条市生活研究会丹原支部が発送するふるさと小包「土のめぐみ夏便」の企画や品質表示の方法等について支援した。</p> <p>○同支部では、夏と冬の年2回、会員が生産した農産物と加工品を送っており、今回は夏便としてミニかぼちゃをはじめ、旬の野菜や梅干しなど11品目を詰め合わせ、117セットを送った。</p> <p>○また、小包には、季節の野菜等を使ったレシピ「土のめぐみレシピ集」や購入者の要望を把握するための調査票を同梱した。</p>			
結果と 今後	<p>○「土のめぐみ」の販売価格は、異常気象や原材料の高騰により年々値上げせざるを得ない状況にあり、調査票の結果等を参考に今後の方向等を検討する。</p> <p>○新たに作成した「土のめぐみレシピ集」は、地元の公民館や小学校にも配布し、地域の食文化の普及・継承に活用する。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>夏便の詰め合わせ内容</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>箱詰め作業する会員</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>同梱された品目紹介チラシ</p> </div> </div>				

標 題	富郷お茶摘み体験と食文化普及講座の開催		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和7年7月6日	場所	四国中央市林業研修センター 富郷こんにやく加工所	
指導対象	富郷茶業部会（10人）、生活研究G（5人）、JA うま女性部（3人）	連携機関	四国中央市、JA うま	
普及指導内容	○富郷地区の集落活性化に向け、お茶摘み体験とこんにやく作り体験の開催を支援した。 ○当日は、16組52人（うち大人38人、小人14人）が参加し、2班体制で作業体験を行った。			
結果と今後	○お茶が完成するまでの各作業を体験し、急須でお茶をいれる楽しみ方を学んだ参加者は富郷の茶産地を満喫し、家庭で手摘みした茶葉で楽しみたいとの意見があった。 ○これらの取組みは、交流人口の増加、地域活性化につながることから、茶産地の維持発展が期待できる一方、運営スタッフ等の高齢化が進んでおり、今後、開催方法等の検討が必要となっている。			



左：お茶摘み体験

右：こんにやくづくり体験

標 題	首都圏における茶販促活動の実施		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和7年7月13日～14日	場所	東京都内百貨店、ホテル	
指導対象	（有）協製茶場（1人）	連携機関	東京事務所	
普及指導内容	○うま茶の認知度向上と販路拡大に向け、「儲かるモデル産地育成システム確立実証事業（県単）」を活用した首都圏へのうま茶の販促活動を支援した。 ○今回は、（有）協製茶場の脇純樹氏が中心となり、シン・エヒメ、せとうち旬彩館、四国味遍路88屋丸の内店、ザ・キャピトルホテル東急の4か所で実施した。			
結果と今後	○シン・エヒメでは、2日間の店頭試飲販売と脇氏によるワークショップを行い、想定以上の売上につながった。 ○ザ・キャピトルホテル東急では、脇氏がガラス茶器を使った茶の入れ方を実演し、茶葉の展開を客に見せる提案を行った結果、ラウンジで実施が可能か検討してみたいと実施に意欲的であった。 ○今後事業を活用して、更なる販促活動の伴走支援を行っていく予定。			



左：首都圏で新宮茶のワークショップ

右：ザ・キャピトルホテル東急で実演と商談

標 題	天満集落でイノシシ対策の計画を策定		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和7年7月10日	場所	四国中央市土居町天満	
指導対象	天満集落関係者（2人）	連携機関	四国中央市、農産園芸課	
普及指導内容	<p>○現在、天満集落一体にワイヤーメッシュ柵を設置しているが、設置から約14年が経過し、機能が低下している箇所が多く、その対策が急務となっている。</p> <p>○当班は県庁農産園芸課や市と連携し、イノシシの効果的な被害対策を検討するため、集落関係者とともに関係場所や被害状況等の聞き取り調査や現地踏査を行った。</p> <p>○農産園芸課は、鳥獣被害防止対策総合支援事業（国補）の活用について説明し、集落関係者からの質疑に応えながら、事業導入に向けた計画策定を助言した。</p>			
結果と今後	<p>○集落関係者は、国補事業について理解を深めることができ、国補事業活用に向けた集落全体で行うべき課題や準備事項等を整理することができた。</p> <p>○今後、集落内で被害対策の協力者を募り、ワイヤーメッシュ柵の具体的な設置場所や事業規模等を決定し、集落全体でイノシシ被害対策を効果的に進めていく。</p>			
				<p>左：集落関係者がイノシシ被害対策を検討</p> <p>右：現場の被害状況を確認</p>

標 題	石鎚黒茶の製造が本格化		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和7年7月1日～	場所	西条市氷見、石鎚外	
指導対象	石鎚黒茶協議会（3団体）	連携機関	—	
普及指導内容	<p>○当室が活動を支援している石鎚黒茶協議会では、今年産の黒茶製造が本格化しており、蒸し作業、一次発酵、揉み作業、二次発酵、乾燥作業が行われている。</p> <p>○生産組織の一つであるピースでは、地元の伝統文化継承を目的に、県立西条農業高校生を招いて、黒茶の製造工程を伝える取組みを実施。</p> <p>○また、Visee、さつき会では、黒茶の魅力を広く発信するため、全国各地から石鎚黒茶に関心の高い消費者や日本茶インストラクターなどのグループを招き、製造体験会を行った。</p>			
結果と今後	<p>○今後、黒茶の製造は乾燥作業を経て、商品として販売開始される予定で、今年度の製造量は全組織で450kgになる見込み。</p> <p>○同協議会では、10月に西条市内において新茶を市民に披露する試飲会を計画しており、当室も石鎚黒茶の魅力を広く発信できるよう支援を行う。</p>			
				
蒸し作業に参加する高校生（ピース）		揉み作業に参加する茶関係者（Visee）		乾燥作業に参加する消費者（さつき会）

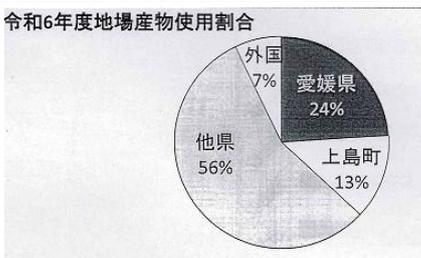
標 題	施設「紅まどんな」の夏季の新梢管理を指導		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和7年7月8日（桜井～朝倉） 7月30日（大西）	場所	今治市内各地	
指導対象	「紅まどんな」施設生産農家 (25人)	連携 機関	JA おちいまばり	
普及指導 内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○管内の「紅まどんな」施設生産者に対し、地区別に各生産者全員の園地を巡回し、個別の問題点について指導した。</li> <li>○巡回時期は夏梢の発生時期で、放置すると極端に樹形を乱すことから、今期は特に夏季の新梢管理の要点を指導した。</li> </ul>			
結果と今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>○今期の施設「紅まどんな」は、徹底した春せん定を実施した結果、充実した春梢が多く、果梗枝の長い有葉果が適度に着生し、粗摘果をあまり必要としない園が多かった。</li> <li>○7月後半に肥大が進み、着果数が多いと感じた時点で摘果するよう指導した。</li> <li>○この時期には樹勢が旺盛で過繁茂となり、樹冠下が暗くなり糖度不足となる園があったが、今年夏梢の管理をこまめに行ったことから、よい結果が期待される。</li> <li>○今後とも関係機関と連携して現地指導に当たっていく。</li> </ul>			
				<p>左：ハウス栽培を巡回 右：夏季の夏梢管理を指導</p>

標 題	「紅プリンセス」の夏季管理を指導		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和7年7月10日	場所	今治市大西町山之内、宮脇	
指導対象	「紅プリンセス」生産者（28人）	連携 機関	JA おちいまばり	
普及指導 内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○大西地区の山之内、宮脇の現地で、大西・乃万・朝倉地区の農業者を対象に、「紅プリンセス」の摘果と夏季管理の講習会を行った。</li> <li>○現時点では、比較的日焼けを起こしにくい着生部位の優良果をやや多めに残し、果実の肥大と枝の下垂を見ながら摘果するよう指導した。</li> </ul>			
結果と 今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>○大西の両園地とも当初から誘引を実施し、開張した樹姿づくりに取り組んでいたこと及び新梢を多数発生させ枝梢を下垂させるよう枝梢管理を指導した結果、樹冠幅が広がり、新梢が多く、良果が多数着生していた。</li> <li>○当室は引続き関係機関と連携のうえ、県オリジナル品種の栽培を指導し安定生産を図っていく。</li> </ul>			
				<p>左：果実の着生特性を解説（山之内） 右：摘果管理を指導（宮脇）</p>

標 題	高温対策に向けたさといも栽培講習会を開催		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和7年7月28日	場所	(株)ファーム咲創	
指導対象	JAおちいまばりさといも部会員(35人)	連携機関	JAおちいまばり、農林水産研究所	
普及指導内容	<p>○今治市の平均気温は、6月半ば以降平年より3℃ほど高く推移したことから、高温対策講習会を開催し、猛暑における栽培管理ポイントを指導した。</p> <p>○当室より、害虫の発生状況や、高温期でも生育を停滞させず孫芋の肥大促進を図るためのかん水の重要性を説明したほか、現地研修では、収量向上を図るため、高度化成の追肥やかん水時に液肥の流し込みをする取組事例を紹介した。</p> <p>○また、収穫作業等の労働力不足解消を図るため、地元の福祉事業所との連携を図っている事例を紹介した。</p>			
結果と今後	<p>○講習会ではハダニ類の防除についての質問が寄せられた。</p> <p>○当室では、引き続き、農林水産研究所など関係機関と連携し、土壤水分センサーを用いた適正な水管理の把握のほか、ほ場巡回等により栽培後期の管理指導を徹底していく。</p>			
				<p>左：室内研修 右：栽培管理ポイントを説明</p>

標 題	鳥獣害対策支援チームによる効果的な複合柵の設置指導		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和7年7月4日、28日、30日	場所	今治市古谷	
指導対象	なし園農家(1人)	連携機関	岡山理科大学、今治市 JAおちいまばり	
普及指導内容	<p>○昨年度にニホンザルによる被害が確認されたなし園において、雑木林側からの飛び込みによる侵入を防ぐため、岡山理科大学、今治市とJAおちいまばり等の鳥獣害対策支援チームが連携し、園地内部の複合柵(約50m)増設設置に取り組んだ。</p> <p>○また、電気柵全体の改修を指導し、既存複合柵の機能強化も図った。</p>			
結果と今後	<p>○園地周辺に設置しているセンサーカメラには、サル、イノシシ、シカ等が映っているものの、複合柵等の対策に取り組んだ園地では、今年度はサルの被害は確認されていない。</p> <p>○引き続き、鳥獣害対策支援チームによる連携を図り、重点支援モデル集落である古谷集落での継続的な点検、指導を行い、サル被害対策の技術確立に取り組む。</p>			
				
関係機関と連携をした設置指導		完成した複合柵		園地周辺で様子を伺うサル

標 題	岩城駐在ほ場で学生がかんきつ栽培を体験		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和7年6月30日～7月4日	場所	しまなみ農業指導班岩城駐在	
指導対象	県立丹原高校園芸科学科(1年生33人) 上島町立岩城中学校(1年生16人、 2年生2人)、 上島町立弓削中学校(1年生24人)、 上島町立魚島中学校(1年生4人)	連携 機関	県立丹原高校、上島町	
普及指導 内容	<p>○県立丹原高校の生徒は、かんきつの年間管理作業や島しょ部で栽培される品種について学び、甘平の摘果実習を行った。</p> <p>○上島町の中学1年生は、島特産のレモンの見学や温州みかんの摘果作業を体験。</p> <p>○また、農業に興味を持つ岩城中学2年生が5日間、職場体験として摘果作業のほか施肥作業、マルチ被覆作業などを体験した。</p>			
結果と 今後	<p>○生徒は、適期作業の重要性や夏季の管理作業が生育に大きな影響を与えることなどを学んだ。上島町の中学生は、12月にも温州みかんの収穫体験を行う予定。</p> <p>○岩城駐在では、農業が将来の職業候補として選択肢の一つとなるよう魅力を発信していく。</p>			
				
年間管理作業や栽培品種を説明		摘果等の現地作業を体験		

標 題	地域食材活用懇談会（学校給食）の開催		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和7年7月4日（金）	場所	上島町役場岩城総合支所	
指導対象	上島町岩城学校給食食材出荷者 （うまい会会員）（4人）	連携 機関	上島町、上島町立岩城小学校	
普及指導 内容	<p>○平成13年に県が呼びかけ、地場農産物を学校給食へ供給するために結成した「うまい会」の活動継続に係る諸課題を検討するため懇談会を開催した。</p> <p>○生産者側の課題や学校給食側の要望などについて発言を求め、改善点を話し合った。</p>			
結果と 今後	<p>○学校側が生産情報をスムーズに把握できる生産計画のリスト作成（事務局聞取り）と、情報端末が使える生産者に情報共有ができるシステムの構築を検討する。</p> <p>○学校から配布する献立リストを1か月単位から半月単位に短縮し、収穫計画との齟齬の縮小、納品時間（当日朝）の弾力化（給食センターと協議）に努める。</p> <p>○高齢化が進む「うまい会会員」の後継者掘り起こしに向け、島内生産者に学校給食への食材提供協力を依頼しており、現在、米60kgの確保の要請がある。</p>			
				
懇談会で諸課題を検討	R6年度の地場産物利用割合		学校給食（イメージ）	

標 題	上島町での新規就農者就農状況面談の実施		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和7年7月29日(火)	場所	上島町役場岩城総合支所、 新規就農者経営ほ場(上島町岩城、生名)	
指導対象	農業次世代人材投資事業経営開始型 給付金受給者(4経営体)	連携 機関	上島町、JAおちいまばり、NPO岩城農 村塾	
普及指導 内容	<p>○上島町で新規就農5年未満の農業次世代人材投資事業経営開始型給付金受給者を対象に、前年度決算書やほ場管理等の確認を行い、就農状況及び経営課題や悩み等を聞き取り、技術的なアドバイスを実施した。</p> <p>○補助事業や資金活用など今後の経営発展に向けた経営指導等について助言した。</p>			
結果と 今後	<p>○昨年10月に新規就農した1人を除き、売り上げ収入の目標を上回る実績であった。</p> <p>○対象者は、国・県の補助事業を活用して果樹施設やかん水施設の導入など経営改善にも積極的に取り組んでいる。</p> <p>○農地の確保に関しては、リタイア農家等から順調に農地集積が図られており、給付金の終了者からは十分な収入の確保を実現できる営農計画を確認した。</p>			
				
			<p>左：就農状況の間取調査風景 右：就農状況を現地で確認</p>	

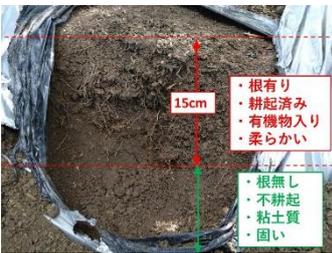
標 題	「今治メロン」販促イベントを盛況に終了		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和7年7月20日	場所	JA直売所「さいさいきて屋」	
指導対象	メロン生産者(3人)	連携 機関	JAおちいまばり (公財)園芸植物育種研究所	
普及指導 内容	<p>○今治メロンの地域特産ブランドとしての定着と産地化を進めるため、JAおちいまばりと協働で販促イベントを開催した。</p> <p>○当日は、直売所隣接の「さいさいカフェ」と共同開発したスイーツ新商品「バリメロン(メロンのパバロア)」と今治メロン青果の試食販売を行うとともに、対面販売での会話や紹介カードの配布等を通じた認知度向上を図った。</p>			
結果と 今後	<p>○多くの来場者に試食・購入をいただき、「とても甘くておいしい」「今治でこんなにおいしいメロンがあるとは知らなかった」などの声が多く聞かれ、用意した新商品(50個)及び青果(180玉)は終了時間の30分前に完売となるなど、盛況のうちに終了した。</p> <p>○生産者は消費者の動向などイベントの成果に手ごたえを感じており、今治メロンの更なる認知度向上と生産量拡大に向けて、引き続きJAと連携した取組みを強化し、生産者の所得向上につながるよう指導・支援していく。</p>			

**【今治メロン】**

- ・JAおちいまばりが「タカミメロン」の販売名称として産地化を進めている。
- ・青肉のネット系メロンで、夏を感じられる爽やかな甘さが特徴。




新商品「バリメロン」の試食提供
好評に完売した「今治メロン」

標 題	甘長とうがらしの高温対策を土壌調査で検討		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和7年7月22日	場所	今治市乃万地区	
指導対象	甘長とうがらし生産者（2人）	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	<p>○近年、夏季の高温が甘長とうがらしの生育に影響を与えており、特に、過度な高温や水ストレスが原因の尻腐れ病が大きな問題となっている。</p> <p>○現地ほ場の土壌調査と根域の分析をJAと連携して実施し、その対策を検討した。</p>			
結果と今後	<p>○根は深さ15～30cmの浅い範囲に分布し、畝間には根が無いことから、水ストレス対策には畝間かん水よりも株元への多頻度かん水が有効であることが示唆された。</p> <p>○その他、耕起が浅いため根が浅くなったほ場や、逆に湿害の症状が見られるほ場など、水ストレス対策に係る様々な知見が得られた。</p> <p>○調査結果を踏まえ、今後はpFメーターを用いた土壌水分値に基づくかん水方法や、根の生育を向上させる土壌改良などを指導し、尻腐れ対策に取り組んでいく。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>株元を掘って根を確認</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>畝の浅い範囲の根域</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>簡易ハウスによる遮光で暑さ対策</p> </div> </div>				

標 題	知事が由良地区再編復旧園で被災生産者と意見交換を実施		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和7年7月18日	場所	松山市由良町	
指導対象	かんきつ生産者（6人）	連携機関	JA えひめ中央、中予局農村整備第一課	
普及指導内容	<p>○西日本豪雨災害により被災した由良地区の園地の再編復旧状況を確認するため、知事が基盤整備園（6工区）を視察し、園主やJAと意見交換を行った。</p> <p>○また、今年3月に一部の園地で植栽されている「せとか」や大苗育苗の「紅プリンセス」の生育状況について確認し、再編復旧が進んでいることを確認した。</p> <p>○当室では、同基盤整備園の土づくりと早期成園化を図るため、緑肥作物の栽培実証に向けて生産者と協議を進めている。</p>			
結果と今後	<p>○9月からの由良地区を対象とした、緑肥作物「テフグラス（イネ科）」などの栽培実証開始に向け、生育調査や土壌分析を進めており、その調査結果を踏まえ、効果的で取り組みやすい緑肥作物の選定と栽培体系を確立する計画。</p> <p>○基盤整備が進む他の工区においても緑肥作物による土づくりや苗木管理の指導を行う予定で、当室では基盤整備園地における早期成園化に向けて引き続き支援する。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>左：再編整備について知事説明</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>右：被災農家との意見交換</p> </div> </div>				

標 題	基盤整備園における鳥獣害対策の強化		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和7年7月22日	場所	松山市下難波基盤整備園	
指導対象	基盤整備園生産者(5人)	連携機関	農産園芸課 (株)野生鳥獣対策連携センター	
普及指導内容	<p>○基盤整備した園地において、かんきつ苗木の植付けが始まるなど徐々に営農が開始されているが、地力が低いため土壌の改善が必要なことから、緑肥作物を用いた土壌浸食防止や腐植含有量の増加による土づくり対策等を進めている。</p> <p>○今回、植付けたかんきつ苗木のウサギによる食害について相談を受けたことから、生産者、鳥獣害対策の専門家と一緒に現地において、園地内外の野生鳥獣の痕跡(糞や獣道等)について確認するとともに対策を協議した。</p>			
結果と今後	<p>○園地内に多くのウサギの痕跡を確認するとともに、生産者から聞取調査を行い、苗木の食害が出る時期は周囲の雑草が無くなる冬場に集中することを把握した。</p> <p>○一般に、ウサギの被害は苗木植付け初期に影響が大きく、成木では小さくなることから、園地規模や手間、コストを考え、園地全体の防護ではなく、まずは、センサーカメラを設置し、生息状況や侵入経路等を確認のうえ捕獲を目指す。</p>			
				
			<p>左：ウサギの食害を確認</p> <p>右：園地内に残されたウサギの糞</p>	

標 題	高温に対する果菜類の技術対策を検討		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和7年7月23～24日	場所	松山市内各地	
指導対象	いちご、なす生産者(計16人)	連携機関	JA(松山市、えひめ中央) みのる産業株式会社	
普及指導内容	<p>○当室では、果菜類の高温障害対策として、いちごの育苗期となすの収穫期での高温対策に関する実証試験を行っているところ。</p> <p>○いちごでは、若手生産者グループ(だんだんの会)のうち2人が、繊維で培土を固めた育苗資材の実証に取り組み、生産者やJAなどの関係者で現在の生育状況を確認。</p> <p>○伊予なす研究部会では、被覆資材2種類とバイオスティミュラント(BS)資材2種類の実証を行うとともに、現地研修会を通じて当室から資材の効果と生育状況を説明。</p>			
結果と今後	<p>○いちご育苗資材と小型ポットの培土内温度の比較では、前者の方が約3℃低下したことを確認し、生産者からは花芽分化の促進等が期待できると評価が高く、今後は、モニタリング機器を設置して、定植後の温度管理に活用予定。</p> <p>○露地なすで遮熱シートと黒寒冷紗の日中の外気温を比較したところ、前者は約5℃、後者は約3℃低下。生産者も涼しさを実感するなど評価は良好であった。</p> <p>○2品種(筑陽、PC筑陽)でBS資材を実証したところ、無処理区に比べ筑陽は正品率、PC筑陽は収量が向上しており、引き続き収量・品質について調査する。</p>			
				
			<p>左：いちご育苗資材の生育状況を確認</p> <p>右：露地なす被覆資材の効果を実感する生産者</p>	

標 題	さととも栽培省力化に向けた乗用管理機を利用した防除研修会を開催		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和7年7月30日	場所	JA えひめ中央東部営農支援センター及び現地ほ場（東温市下林）	
指導対象	さととも生産者（13人） JA 研修生（6人）	連携機関	JA えひめ中央、県農林水産研究所	
普及指導内容	<p>○当室では、さととも栽培での作業の省力化と機械化体系を推進するため、生産者やJA 研修生を対象に、ハイクリアランス仕様*乗用管理機による防除作業の研修会を開催。</p> <p>○研修会では、県農林水産研究所から乗用管理機による作業時間の短縮や省力化などについて説明し、当室からは、さとともの生育状況や病害虫の発生状況を踏まえた今後の栽培管理について指導した。</p> <p>○実演会では、乗用管理機の仕様の説明や防除作業を行い、生産者やJA と作業の状況を確認しながら意見交換を行った。</p>			
結果と今後	<p>○実演会では、16aの防除作業が10分程度で終了。生産者からは「防除時間が大幅に短縮できる」「作業効率が良いので体の負担が小さい」などの意見が出た。</p> <p>○出席者へのアンケート調査では、2人が「導入を検討したい」と回答があり、生産現場での要望も強いことから、引き続き、規模拡大に向け機械化体系の推進を図る。</p>			
<p>【ハイクリアランス仕様の乗用管理機】 最低地上高が高く設定された乗用管理機で、作物体を傷つけることなく作業が可能。</p>				<p>乗用管理機の説明</p> <p>防除作業の実演</p>

標 題	伊予地区就農啓発交流会を開催		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和7年7月2日	場所	砥部町三角、砥部町七折	
指導対象	県立伊予農業高校生（15人）	連携機関	伊予地区農業改良普及事業推進協議会	
普及指導内容	<p>○農業の魅力発信及び就農啓発を目的として、就農に関心のある高校生を対象に、砥部町の果樹農家と農事組合法人ななおれ梅組合において、中晩柑類の栽培ほ場や梅加工場の見学、各農家との意見交換を行う交流会を開催した。</p>			
結果と今後	<p>○生徒からは、「農家に向いているのはどんな人か」や「独自の栽培の工夫はあるか」など積極的に質問があがり、農家が真摯に回答した。</p> <p>○農家からは、「若い人が農業に携わり、成長していく姿を見られるよう支援するのが今後の目標」とのコメントがあるなど、活発に意見交換が行われた。</p> <p>○次回は、12月頃に同高校において農業指導士や新規就農者からの経営事例等の報告や意見交換などの交流会を開催する予定。</p>			
		<p>左：「紅まどんな」の栽培ほ場で意見交換</p> <p>右：七折小梅の加工場を見学</p>		

標 題	「ひめの凜」の品質向上に向け講習会を開催		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和7年7月3日、9日	場所	JA（えひめ中央伊予中央支所、松山市岡田支所）	
指導対象	「ひめの凜」認定栽培者（76人）	連携機関	JA（えひめ中央、松山市）	
普及指導内容	<p>○当地区管内における「ひめの凜」の認定栽培者全員の「プレミアムクオリティ基準」クリアを目的に、品質向上の肝となる生育中期の水管理について講習会を開催した。</p> <p>○講習会では、中干しの方法や気象条件に応じた今後の栽培管理ポイントを指導した。</p> <p>○ほ場では、参加者が稲の茎数や葉色などを確認し、中干しの最適なタイミングについて目合わせを行った。</p>			
結果と今後	<p>○参加者は、猛暑における中干しの開始時期や実施期間などを把握することができ品質管理の認識を深めた。</p> <p>○次回は、8月上旬に穂肥講習会を開催する予定。</p>			
				<p>左：水管理の講習会</p> <p>右：中干しの時期を確認</p>

標 題	熱中症対策、農作業事故防止の徹底を指導		機関名	中予局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和7年6月30日～7月8日	場所	久万高原町全域	
指導対象	JA松山市久万高原清流米部会（83人）	連携機関	JA松山市	
普及指導内容	<p>○町内26カ所で水稻後期管理講習会に併せて、熱中症対策、農作業事故防止の徹底を指導した。</p> <p>○指導内容として、早期の梅雨明けによる気温上昇の影響により熱中症リスクが高まっているため、早めの給水、こまめな休憩を心掛けることや、高齢者は暑さの感覚が鈍くなり特に注意すること等、わかりやすい説明に心掛けた。</p> <p>○また、農作業安全についても、緊急時に対応できるよう携帯電話の常時装備、家族に作業場所を連絡し、無理のないペースで作業を行うことを周知した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは、暑い中での作業となるので熱中症や農作業事故に留意したい等の意見が寄せられ、熱中症対策、農作業事故に対する意識が高まり徹底を図ることができた。</p> <p>○関係機関と連携を図りながら、熱中症及び農作業事故防止に努めたい。</p>			
		<p>普及指導員が熱中症対策、農作業安全について説明</p>		

標 題	小学生が雑穀を使用したカレーナンを調理		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和7年7月12日	場所	県立上浮穴高校	
指導対象	県立上浮穴高校生（5人）、えひめ子ども観光大使講座受講生（県内小学生：20人）及び保護者（18人）	連携機関	県立上浮穴高校 NPO 法人えひめ教育技術研究所	
普及指導内容	<p>○上浮穴高校は、雑穀の食文化を次世代の子供たちに伝えるため、昨年度に引き続き、「えひめ子ども観光大使」の認定講座として、雑穀を使った料理講座を開催した。</p> <p>○講座では地とうきびの粉（はなこ）を練りこんだナンに、同校が開発した「ぶちきびカレー」をトッピングした雑穀カレーナンの調理方法を高校生が受講生にレクチャーし、参加者で試食を行い、「ぶちきびカレー」のPRを行った。</p> <p>○また、久万大豆を使用した「きなこプリン」を高校生が試作し、試食で提供した。</p> <p>○当班は雑穀に関するパネル展示等を通して雑穀の活用について紹介した。</p>			
結果と今後	<p>○高校生は、雑穀クイズや雑穀カレーナンの調理と試食を通して小学生との交流を深め、雑穀の魅力を伝えた。</p> <p>○なお、同校ではきなこプリンの改良や米粉とはなこを使用したカップケーキの開発も進めており、当班では引き続き、これらの取組みを支援していく。</p>			
<p><b>【えひめ子ども観光大使】</b> NPO 法人えひめ教育技術研究所が愛媛の良さを知り、その魅力を発信できる県内の小学生を毎年認定している。</p>				
		高校生が受講生にレクチャー		完成した雑穀カレーナン

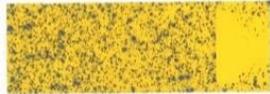
標 題	そらまめ産地の強化に向けて今年度の取組みを協議		機関名	中予地方局産地戦略推進室
年月日	令和7年7月2日	場所	中予地方局	
指導対象	関係市町・JA 等関係機関職員（11人）	連携機関	伊予市、松前町、JA（松山市、えひめ中央、全農えひめ）、県農林水産研究所	
普及指導内容	<p>○地方局予算「そらまめ産地強化事業」により、近年問題となっているそらまめの収量低下の原因究明や単収の向上に向けた取組みを実施している。</p> <p>○同事業に係る第1回連絡会議を開催し、令和7年産そらまめの栽培状況や今年度の栽培実証試験等の取組内容について協議するとともに、情報交換を行った。</p>			
結果と今後	<p>○7年産では、近年問題となっている「黄化症状」は確認されず、生育良好な場合の比較データを取得できたことや、出荷量は6年産を上回ったことを報告。</p> <p>○今年度は、9月から6か所の実証ほを設置し、着莢期以降の地温上昇や大雨への対策技術を実証すること等を決定した。</p> <p>○引き続き、関係機関と連携し、そらまめの産地強化を推進する。</p>			
		今年度の取組み等を協議		

標 題	「さくらひめ」の収益性向上を目指して		機関名	中予地方局産地戦略推進室
年月日	令和7年7月16日	場所	中予地方局	
指導対象	「さくらひめ」生産者及び関係機関職員等（11人）	連携機関	(株)大田花き、(株)なにわ花いちば、JA えひめ中央、農産園芸課、県農林水産研究所	
普及指導内容	<p>○地方局予算「さくらひめ産地強化事業」に係る適時出荷体制の確立に向けた検討会を開催した。</p> <p>○市場関係者から東京・大阪の流通動向の報告があったほか、6年度の生産実績や7年度の技術実証計画等について協議を行った。</p> <p>○当室からは、夜冷や施設冷蔵処理を行う夏季自家育苗により定植時期の前進化等の実証を行う計画を説明し、ポイントとなる技術について意見交換を行った。</p>			
結果と今後	<p>○市場から、6年産「さくらひめ」は品質良好であったことや、主な需要であるプライダルと歓送迎会に対応する安定出荷が重要などの報告を受け、情報を共有した。</p> <p>○引き続き、生産者や関係機関と連携しながら、需要期出荷や継続的な安定生産による生産者の収益向上に取り組む。</p>			
<div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 20px;"> <p>技術実証計画等を協議</p> </div> </div>				

標 題	かんきつの日焼け果軽減実証を開始		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和7年7月9日	場所	宇和島市内各地	
指導対象	—	連携機関	JA えひめ南、みかん研究所	
普及指導内容	<p>○近年、夏場の強日射による高温で果実の日焼け発生が多くみられることから、炭酸カルシウム資材等の散布による日焼け果軽減の実証を開始した。</p> <p>○当日は、温州みかん7園地、日焼け果の発生が多い「せとか」7園地で炭酸カルシウム剤等を散布した。</p>			
結果と今後	<p>○今後、2回目を8月上旬、3回目を9月上旬に散布し、日焼け果の発生程度と資材散布による果実の汚れを調査し、今後の普及について検討する。</p>			
<div style="display: flex; align-items: center;">   <div style="margin-left: 20px;"> <p>左：薬剤散布状況 右：散布後の果実</p> </div> </div>				

標 題	「ひめの凜」の穂肥講習会を開催		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和7年7月22日	場所	JA えひめ南三間支所	
指導対象	ひめの凜認定栽培者（10名）	連携機関	農産園芸課	
普及指導内容	<p>○出穂をひかえた「ひめの凜」について、穂肥の適切な施用時期や施用量、水管理、適期の刈取り及び丁寧な乾燥作業について講習を行った。</p> <p>○また、認定栽培者に対する迅速な技術指導等を目的に導入する新たなアプリ「ファームチャット」について、農産園芸課が概要を説明し、利用を勧めた。</p>			
結果と今後	<p>○室内講習後、高温障害を回避するために幼穂形成期から出穂期の溶出が多くなるよう改良した緩効性肥料の実証ほの生育状況を確認し、栽培者へ「この時期の葉色維持が非常に重要」と説明を行い、栽培者間でも活発な意見交換がされた。</p> <p>○また、参加者の多くがその場で「ファームチャット」を登録した。</p> <p>○今後、本格的な運用開始に合わせ、情報の提供や技術相談等に活用し、「ひめの凜」の高品質栽培の支援に努める。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: left; padding-left: 20px;"> <p>左：「ひめの凜」の当面の管理について説明</p> <p>右：現地講習</p> </div> </div>				

標 題	多収米品種「にじのきらめき」の穂肥診断を実施		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和7年7月2日、4日	場所	JA えひめ南鬼北支所、三島支所、日吉支所	
指導対象	水稻生産者（30人）	連携機関	JA えひめ南	
普及指導内容	<p>○管内で栽培が広がりつつある高温耐性の多収品種「にじのきらめき」の特性把握を兼ねた穂肥診断を実施した。</p> <p>○生産者が持ち込んだ稲株ごとに、測定した幼穂の長さや葉色、ヨード染色率を指標に、穂肥の施用時期と施用量を算出し指導した。</p> <p>○当品種は、高温に強く、多収が見込まれているが、鬼北地域のように盆地で最高気温が高い地域で、既存品種（「コシヒカリ」、「あきたこまち」）に比べどのような違いがあるかを注意深く観察した。</p>			
結果と今後	<p>○「にじのきらめき」は、既存品種に比べ出穂期が早まることや、葉色が薄くなりやすく追肥が必要なほ場が多かった。</p> <p>○生産者からは、「遅く植えた「コシヒカリ」と穂肥時期が重なった」「来年からはもっと移植時期に差をつけて、施肥量も多くしたい」との声があった。</p> <p>○今後は、刈取適期、収量・品質の調査を行い、鬼北地域に適した作付け体系を検討し、高品質安定生産や作付面積の拡大につなげる。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: left; padding-left: 20px;"> <p>左：「にじのきらめき」の幼穂長さからの穂肥施用日の算出</p> <p>右：ほ場の様子（7月30日撮影）</p> </div> </div>				

標 題	河内晩柑におけるドローン防除の付着状況良好		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和7年7月4日	場所	愛南町御荘平山	
指導対象	—	連携機関	愛南町、JA えひめ南、南宇和地区営農指導連絡推進会議果樹部会	
普及指導内容	○河内晩柑のドローンによる黒点病防除試験を昨年度から取り組んでおり、今年度は直線的に植栽され独立樹となるよう管理されている園地で防除試験を実施した。 ○当日は、園地内の4樹に感水紙を8枚ずつ設置し、散布後の付着状況を確認した。			
結果と今後	○園地条件や樹形の違いから、昨年度の実証結果と比べて、散布ムラは軽減した。 ○参加者からは、「ドローンの飛行高度は何メートルで設定しているのか」「ドローンの登録農薬は何かがあるのか」等の質問があり、関心の高さがうかがえた。 ○愛南町内のかんきつにおけるドローン防除累計面積は約20ha(7/20現在)と、急速に普及しており、当班では継続的に防除効果を調査し、最適な樹形等について検討を行う。			
				<p>【感水紙】 水が付着すると色が変わり、乾くと紙に色が定着する。</p> 
参加者との意見交換		ドローン散布		回収した感水紙

標 題	ブロッコリー等の効率的な施肥や干ばつ対策に関する講習会を開催		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和7年7月16日	場所	JA えひめ南南宇和営農センター	
指導対象	JA えひめ南野菜部会南宇和支部(28人)	連携機関	JA えひめ南	
普及指導内容	○養水分吸収等の基本的な植物生理から、ブロッコリーの効率的な施肥パターン、干ばつ時の応急的な走り水かん水や液肥の葉面散布の重要性について説明した。 ○これは、昨年12月～3月の少雨でブロッコリーの生育が著しく遅れ、収量及び品質の低下が問題となったため、実施したもの。			
結果と今後	○参加者からは「干ばつ時の畝間かん水はどの程度実施すべきか」「葉面散布の倍率・量はどの程度とすべきか」等の質問が多数あり、干ばつ対策に関する意識の高まりが感じられた。 ○引き続き、気候変動にも対応したブロッコリー等の安定生産に向けた技術指導を実施していく。			
				植物の養水分吸収の基本概念を説明

標 題	つるむらさき栽培講習会を開催		機関名	南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和7年7月9日	場所	JA えひめ南 三間営農センター	
指導対象	つるむらさき生産者（15人）	連携機関	JA えひめ南	
普及指導内容	<p>○今年度実施している技術実証内容として、化学薬剤を使用した土壌消毒、防虫ネットや超音波発生装置によるハスモンヨトウ防除、省力多収を目的とした立体栽培技術導入について説明。</p> <p>○また、当室が作成した栽培マニュアルを活用し、主要害虫であるハスモンヨトウの発生状況を踏まえた今後の見通し、さらに初期防除の徹底が高品質な生産につながることを説明した。</p>			
結果と今後	<p>○生産者からは「品質の高いものを出荷するために、早めの防除を心がけたい」といった前向きな意見があった。</p> <p>○実証結果は年度末までに開催予定の精算会において報告する予定。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <p style="text-align: center;">左：実証内容や防除ポイントを説明 右：実証中の立体栽培ほ場</p>				

標 題	「道の駅みま」を核とした宇和島産農産物のPR活動の実施		機関名	南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和7年7月19～20日	場所	タオル美術館	
指導対象	—	連携機関	道の駅みま	
普及指導内容	<p>○宇和島産農産物をPRするため、南予地方局商工観光課と連携し、南予の観光キャンペーンに合わせて、生産者や道の駅みまによるブラッドオレンジジュースや「河内晩柑」、つるむらさき等の農産物の販売会を実施した。</p> <p>○また、2階土産物コーナーでは、南予ブースが設置され、同道の駅を中心に南予の各道の駅のオリジナル商品等が常設で販売できることになった。</p>			
結果と今後	<p>○県外の来館者からは「次回は南予へ行ってみたい」「かんきつ以外の農産物や加工品に興味を持った」といった声が聞かれた。</p> <p>○今後は「みま米」を始めとした季節ごとの農産物や加工品の提案に加えて、観光を合わせた誘客につながるPR活動を実施し、同道の駅を核とした農産物の販売拡大を図る。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <p style="display: flex; justify-content: space-around;"> <span>2階 南予ブースの準備</span> <span>宇和島産農産物販売</span> </p>				

標 題	青年農業者とともに就農相談実施		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和7年7月26日	場所	マイドームおおさか	
指導対象	青年農業者（1人）	連携機関	JAにしうわ 八西地区青年農業者連絡協議会	
普及指導内容	<p>○西宇和地域の農業や暮らしの魅力を発信し、新たな担い手を呼び込むため、大阪で開催された「マイナビ農林水産 FEST」に青年農業者、JA 担当者と参加した。</p> <p>○来場者に対して、産地の概要や当地域での就農の流れを説明、それぞれの意向に応じた相談に対応するとともに、総合的な情報提供を行った。</p> <p>○また、青年農業者自らが地域 PR 動画により産地を紹介、地域の風土や農業の魅力を実体験としてわかりやすく来場者に伝える工夫を行った。</p>			
結果と今後	<p>○ブースには5名の相談者が訪れ「生産者から直接話を聞くことができ、現場の様子がよく理解できた」などの感想とともに、農業体験や収穫アルバイトとして来県に意欲を示す相談者もいたことから、相談者への情報提供を継続していく。</p> <p>○当室は、関係機関と連携し、今後開催される就農相談会にも積極的に参加することで、相談者の就農が実現できるよう、担い手確保に取り組んでいく。</p>			
				<p>左: 就農希望者との就農相談 右: 西宇和地域の産地紹介</p>

標 題	青年農業者が大洲農高生と農作業現地研修で交流		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和7年7月2日	場所	大洲市長浜沖浦	
指導対象	大洲喜多地区青年農業者協議会員（2人） 県立大洲農業高校生徒（8人）	連携機関	県立大洲農業高校	
普及指導内容	<p>○大洲喜多地区青年農業者協議会が取り組んでいる担い手確保活動の一環である「農作業現地研修」の企画運営支援を行った。</p> <p>○高校生に農業の大切さを学んでもらうため、会員のかんきつ園地で粗摘果作業を行い、青年農業者が摘果のタイミングや果実の選別方法等の技術ポイントを指導した。</p> <p>○作業後は打ち解けた雰囲気の中で交流を図り、青年農業者から就農のきっかけや苦労、やりがいなどを伝えた。</p>			
結果と今後	<p>○生徒からは作業に関する率直な質問や「農業は魅力的な仕事だと感じた」といった感想が聞かれ、より農業への関心を高めることができた。</p> <p>○今後も現地研修等を通じ、青年農業者が取り組む担い手確保活動を支援していく。</p>			
				<p>左: 粗摘果の技術指導 右: 高校生との交流</p>

標 題	女性農業者ネットワークの構築に向けて（大洲喜多地区女性組織連携会議開催）		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和7年7月14日	場所	内子自治センター	
指導対象	女性農業者3組織役員（9人）	連携機関	大洲市、内子町	
普及指導内容	<p>○当班は組織活動の強化による女性農業者の資質向上を目的に、これまで連携が少なかった管内3つの女性農業者組織に呼びかけ、女性農業者ネットワークを立ち上げた。</p> <p>○第1回目の今回は、各組織の活動紹介に加え、現在の課題や今後の活動内容などを意見交換し、当班からは組織間の連携について具体的な活動を提案した。</p>			
結果と今後	<p>○3組織合同研修会の開催や、マルシェへの共同出店、児童や親子を対象にした食農教育など、それぞれの組織の特徴を生かした連携活動を進めることが決まった。</p> <p>○今後も定期的に会議を開催し、組織間のネットワーク構築と活動を支援していく。</p>			
<p>【大洲喜多地区の女性農業者組織】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大洲喜多地区生活研究会</li> <li>・大洲・内子いきいきネットワーク（女性農業委員で構成）</li> <li>・ぷらいまりい（一次産業女子ネットワークさくらひめ会員で構成）</li> </ul>				<p>活動内容について協議</p>

標 題	三瓶町4Hクラブが視察研修会を開催		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和7年7月1日～2日	場所	福岡県久留米市、大分県大分市	
指導対象	三瓶町4Hクラブ会員（10人）	連携機関	西予市三瓶支所	
普及指導内容	<p>○会員から、資質向上と農業経営改善を目的として、生産資材の価格動向やスマート農業について勉強したいという声を受け、県外への視察研修会の企画運営を支援した。</p> <p>○かんきつ苗木生産業者2件（久留米市）と農業機械メーカー（大分市）を訪れ、苗木の品質や価格情勢、ドローンの最新機種等について学んだ。</p>			
結果と今後	<p>○会員は、苗木の栽培管理や最先端のスマート農業機械に対する知見を深め、今後の農業経営に関するヒントを得ることができ、有意義な研修となった。</p> <p>○今後は、ドローンの導入や栽培管理の効率化による農作業の省力化に努め、農業経営の改善に取り組んでいく。</p> <p>○当班では、今後も青年農業者の資質向上のため、引き続き組織活動を支援していく。</p>			
				
		<p>左：苗木生産ほ場見学 右：ドローン等の農業機械見学</p>		

標 題	西予生活研究協議会が視察研修会を開催		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和7年7月18日	場所	西予市城川町遊子川	
指導対象	西予生活研究協議会（18人）	連携機関	西予市	
普及指導内容	<p>○地元農産物の有効活用、加工品開発の優良事例収集を目的に、当班コーディネートのもと、市内の農産物加工やグリーン・ツーリズム活動等の視察研修会を開催した。</p> <p>○栗を使った商品開発・販売を行う「(株)城川ファクトリー城川自然農場」及びトマトのオーナー制度などで地域おこしに取り組む「城川ザ・リコピンズ」を視察し、地域の農産物を使った事業展開や商品開発の工夫について学んだ。</p>			
結果と今後	<p>○協議会員は、同じ市内で農産物加工や地域おこし活動に積極的に取り組む組織等の事例を学ぶことで、新たな視点を取り入れた活動の展開を考えられるようになった。</p> <p>○協議会が取り組む直売所での実演販売活動や、消費者への郷土料理普及継承活動に、今回の研修で得た知見を生かせるよう、引き続き支援していく。</p>			



左：城川ファクトリー視察

右：城川ザ・リコピンズ視察

標 題	媛小春栽培マニュアル策定に向けた夏秋梢処理実証試験の調査		機関名	八幡浜支局産地戦略推進室
年月日	令和7年7月17日	場所	八幡浜市内各地	
指導対象	—	連携機関	—	
普及指導内容	<p>○「媛小春」は着果が不安定という栽培上の問題があり、安定生産に関する新たな技術が求められている中、南予の媛小春魅力アップ協議会において、夏秋梢を利用した栽培実証の要望があった。</p> <p>○これを受け当室では、夏秋梢処理の違いによる、果実の生産量や品質への影響を調査するため、夏秋梢温存区（夏秋梢を一部残してせん定）と慣行区（夏秋梢をすべてせん定）を設定した園地において、着果状況調査を行った。</p>			
結果と今後	<p>○夏秋梢温存区の夏秋梢においても着果が確認でき、春枝と比較し結実率が高かった。</p> <p>○今後、果実肥大や果実品質の調査を行い、夏秋梢の処理方法を引き続き検証するとともに、これらの調査結果は講習会等で同協議会員へ情報提供する。</p>			



左：果実数調査

右：夏秋梢の着果状況

標 題	水稲の高温対策について協議		機関名	農産園芸課 高度普及推進グループ
年月日	令和7年7月18日	場所	全農えひめ農業技術センター	
指導対象	作物調査研究会員、JA 関係職員 (63人)	連携機関	全農えひめ、県農林水産研究所	
普及指導内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○昨年、水稲の一等米比率が低かったことから、高温対策技術をテーマに第1回作物調査研究会を開催した。</li> <li>○各普及拠点から、県下の水稲生育状況について報告後、高温障害を軽減する栽培方法や、現場での取組事例、病害虫の発生状況について情報を共有。</li> </ul>			
結果と今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>○気温が高く推移していることから、普通期水稲の生育が早まっており、6月移植では早めに中干しを行うよう指導を徹底する。</li> <li>○水稲の高温障害対策について、ケイ酸資材施用や水管理の重要性について再認識し、県全体で水稲の高品質・安定生産に向けた取組みを行うよう、県全体としての技術力向上を図る。</li> </ul>			
 <p>病害虫の発生状況について説明</p>				

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

機関名	所在地および連絡先
東予地方局農林水産振興部 農業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898-68-7322 FAX:0898-68-3056
東予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896-23-2394 FAX:0896-24-3697
東予地方局農林水産振興部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898-23-2570 FAX:0898-22-9724
東予地方局農林水産振興部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897-72-2325 FAX:0897-72-1912
中予地方局農林水産振興部 農業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089-909-8762 FAX:089-909-8395
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町入野 263 TEL:0892-21-0314 FAX:0892-21-2592
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089-982-0477 FAX:089-983-2313
南予地方局農林水産振興部 農業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895-22-5211 FAX:0895-22-1881
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々1880 TEL:0895-45-0037 FAX:0895-45-3152
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895-72-0149 FAX:0895-73-0319
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894-23-0163 FAX:0894-23-1853
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市田口甲 425-1 TEL:0893-24-4125 FAX:0893-24-5284
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894-62-0407 FAX:0894-62-5543